

「在宅介護分科会」

運営委員（敬称略）	永田 敏剛（愛知県医労連）
	米沢 哲（日本医労連）
助言者（敬称略）	篠崎 良勝（城西国際大学）

介護の本質とは、在宅ケアの本質とは何でしょうか。

私たちの介護の対象となる高齢者は一人ひとりの「人間」であり「生活者」です。どんなに時代が変わろうとも、私たち一人ひとりが持っている人生の喜びや悲しみの本質は変わりません。そうした一人ひとりの人生に寄り添うことを礎に生み出されているのが介護実践です。

言葉ばかりが先行する空虚な「包括支援」や「自立支援」が押し付けられ、総合事業へ移行し、無資格者やボランティアが主体の「だれでもできる『介護』」が拡大されようとしています。政府によってすすめられている社会保障・介護保障の解体が引き起こしている事態を、専門職である私たちが実態として社会に訴えていくことは、私たちの重要な役割です。実践を通した日々の営みから、本物の在宅介護のあり方、そして介護労働のあり方を確立するとともに、介護の本質と専門性を追究し、「専門的な介護」の重要性を発信していく必要があります。在宅介護の事例や問題意識、課題などを交流・共有し、在宅介護の専門性を討議し、深めていきましょう。

是非とも、以下の課題を参考にレポートを提出してください。

【在宅介護レポート課題】

- ・在宅介護の専門性（援助技術・支援等に関する実践例、とりわけ予防介護サービスについて）
- ・サービスの連携（介護と医療、介護と介護）や事業所内の共同による介護の実践例について
- ・生活援助の専門性について（重要性）
- ・介護労働の問題（夜勤、医療行為、働き方の問題など）
- ・介護保険制度が専門性に与える影響
- ・日常での実践で悩んでいること、インシデント・アクシデント

※ レポートの内容によっては、ご本人のご承諾を得たうえで、施設介護分科会で発表していただくことがあるかもしれませんので、ご了承ください。